

MEGURI2040 世界初、複数自動運航船・同時運航（記者発表）  
船員の命を守る船舶、安全運航技術に期待

3月27日、東京の晴海客船ターミナルで、2020年2月から推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」の第2フェーズの船舶による「複数自動運航船・同時運航支援」の記者発表会が開催され、同時に複数の船舶と陸上支援センターをつないでの同時自動運航デモンストレーションと、内航コンテナ船「げんぶ」の船内見学会が実施された。記者発表会では、日本財団の尾形武寿会長と海野光行常務理事が主催者としてプロジェクトの概要を説明し、来賓として出席した水嶋智国土交通省国土交通事務次官と全日本海員組合松浦満晴組合長が、あいさつで自動運航船への期待について述べた。

晴海客船ターミナルで開催された記者発表会には、各テレビ局をはじめ、新聞記者など多くのメディア関係者が出席し、はじめに主催者を代表して日本財団の尾形会長があいさつし、続いて日本財団の海野常務理事がプロジェクトの概要を説明した。

来賓あいさつでは水嶋国土交通省国土交通事務次官が今後の国の取り組みについて述べ、松浦組合長が、この技術に期待するのは「船員の厳しい労働環境の抜本的な改善」であると述べた。

続いて、フォトセッションと自動運航デモンストレーションが実施され、出席した記者との質疑応答が行われた。

「海員だより」